

日本発生生物学会

会長：阿形 清和
(2013年1月1日現在)

- 1968年設立
- 会員数：約1,400名 (2010年2月現在)
- 〒650-0047
- 神戸市中央区港島南町2-2-3 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター内
- Tel：078-306-3072
- Fax：078-306-3072
- E-mail：jsdbadmin@jsdb.jp
- URL：http://www.jsdb.jp/

本学会は発生生物学の進歩と普及に努めることを目的として設立されました。国際誌Development Growth & Differentiationを刊行し、また年1回の大会を開催しています。さらに、国際発生生物学会の構成学会として国際的にも活動しています。

日本微生物生態学会

会長：西澤 研
(2013年1月1日現在)

- 1985年設立
- 会員数：約1,000名
- 〒113-8657
- 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学大学院農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 土壌圏科学研究室内 日本微生物生態学会事務局
- Tel：03-5841-5139
- Fax：03-5841-8042
- URL：http://www.microbial-ecology.jp/

微生物生態学は環境微生物学のほか、微生物生理学、微生物系統進化学、微生物ゲノム科学、公衆衛生学、食品微生物学、環境バイオテクノロジーなどを網羅し、地球システム全体をその研究対象とする総合的学問である。微生物生態学会はそれらを包括する学会として設立された。学術集会を年1回開催するほか、日本土壌微生物学会との共同編集により学術誌Microbes and Environments (IF=2.301)を年4回刊行する。

特定非営利活動法人 日本免疫学会

理事長：斉藤 隆
(2012年10月1日現在)

- 1970年設立
- 会員数：約5,000名
- 〒101-0061
- 東京都千代田区三崎町3-6-2 原島三崎町ビル2F
- Tel：03-3511-9795
- Fax：03-3511-9788
- E-mail：men-eki@s3.dion.ne.jp
- URL：http://www.jsi-men-eki.or.jp/

日本免疫学会は、世界の免疫学会の中で2番目に大きな規模を誇っております。日本免疫学会の理念は、「免疫学を志す会員を組織的に支え、もって免疫学の発展を促進すると共に、免疫学をより広く世界に広めること」です。この理念のもとに、学術集会開催、日本免疫学会賞などの顕彰、学術誌International Immunologyやニュースレターの刊行を通じて、会員の交流促進と若手研究者の育成に積極的に取り組んでいます。さらに、サマースクールや免疫ふしぎ未来などの活動を通して、一般社会に対しても免疫(学)の重要性をアピールし、研究への理解を深めていただけるよう努めております。

日本比較生理生化学会

会長：神崎 晃平
(2013年1月1日現在)

- 1978年設立
- 会員数：475名 (2013年1月8日現在)
- 〒153-8904
- 東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学先端科学技術研究センター 生命知能システム分野内
- Tel：03-5452-5196
- Fax：03-5452-5196
- E-mail：office@jscpb.org
- URL：http://www.jscpb.org/

本学会は、比較生理生化学および関連分野の学術研究を振興し、広範な生命現象の理解をはかることを目的としています。多様な生物が進化により獲得した環境に適応するしくみを、生物間の「比較」を通して理解することを目指しています。全国大会を年1回、他学会との合同シンポジウムなども随時開催しています。年4回学術雑誌「比較生理生化学」を発行するとともに、関連分野の出版事業、教育活動を積極的に推進し、広く社会に貢献することも目指しています。また、ホームページ上に関連分野のトピックスを平易に解説した「動物の生きるしくみ事典」や本学会員が研究材料とする様々な動物種などを公開し、当該分野の魅力を広く一般に紹介することにも取り組んでいます。

日本比較内分泌学会

会長：竹井 祥郎
(2013年1月1日現在)

- 1975年設立
- 会員数：約450名
- 〒277-8564
- 千葉県柏市柏の葉5-1-5 東京大学大気海洋研究所生理学分野内 日本比較内分泌学会事務局
- Tel：04-7136-6202
- Fax：04-7136-6206
- E-mail：hyodo@aori.u-tokyo.ac.jp
- URL：http://www.jsce1975.jp/

日本比較内分泌学会は、理学、農学、医学、薬学、化学など多様な分野の研究者が集い、わが国における基礎的な内分泌学の発展を担っている。これまで2回の国際学会を主催するとともに、毎年学術集会およびシンポジウムを開催し、学会誌「比較内分泌学」を年4回発行している。また、教育と社会貢献の一環として出版活動を行っており、ホルモンの生物科学、内分泌器官のアトラス、ホルモンハンドブック等、多数を出版している。

日本分類学会連合

代表：鶴崎 展巨
(2013年1月1日現在)

- 2002年設立
- 会員数：加盟学会25学会合計のべ約14,160人 (2013年1月現在)
- 〒739-8524
- 東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院 教育学研究科自然システム教育学講座内
- Tel：082-424-7093
- Fax：082-424-7093
- E-mail：tomikawa@hiroshima-u.ac.jp
- URL：http://www.ujssb.org/

本連合は、日本国内の生物の分類に関わる学会の連合組織として、分類学全般に関わる研究および教育を推進し、分類学分野の普及と発展に寄与することを目的に設立されました。加盟学会数は現在25です。ニュースレターの発行(年2回)のほか、毎年1月初旬に開かれる総会に合わせて1または2つのシンポジウムを開催しています。またABS問題の説明会や国内の重要標本データベースの構築などでも主体的に活動しています。

生物科学学会連合
入会(加盟)のご案内

生物科学学会連合は生物科学に関連する学術団体の連合体で、その構成員(会員)は個人ではなく学協会および連合体です。
入会方法の詳細は、生物科学学会連合事務局へお問い合わせください。

生物科学学会連合

中西印刷株式会社 東京事務所内
〒113-0033 東京都文京区本郷2-26-11
浜田ビル5階
Tel：03-3816-0738 Fax：03-3816-0766
E-mail：seikaren@nacoss.com
<http://www.nacoss.com/seikaren/>

生物科学学会連合
The Union of Japanese Societies for Biological Science

ご挨拶

生物科学学会連合代表
浅島 誠

21世紀は生命科学又は生物科学の時代だと言われていいます。そのような中で「生物科学」または「生物学」の発展のためにどのようなことを今、私達が現世代や次世代のためになすべきかについて考えています。生物学系学会が緩やかな結びつきのもと、全学会が平等な立場で連合を立ち上げています。国は日本を科学技術立国にするために「科学基本法」などをつくりましたが、大学や教育・研究現場における理科離れは進んできており、このままでは日本の教育、とりわけ「理科」そのものも危ういのが現状です。

一方、理科の分野においては「物理学会」や「化学会」のような大きな学会が存在し、それなりに政府や研究・教育に対しても意見を述べたり、お互いに協力して討議したりするだけの力をもっていました。ところが「生物学」又は「生物科学」は従来の学問のまま、更に次々と細分化していき、お互いの学会間の協力はいくらか試みられていたようですが、必ずしも連携を上手く結ぶということには中々至っておりませんでした。1999年、いくつかの学協会の協力もあって「生物科学学会連合」は発足する運びとなり、「生物科学学会連合」はその後、大学等の法人化や政府の科学政策

加盟団体一覧 (五十音順)

- | | |
|-----------|------------|
| 個体群生態学会 | 日本生態学会 |
| 日本味と匂学会 | 日本生物教育学会 |
| 日本遺伝学会 | 日本生物物理学会 |
| 日本宇宙生物科学会 | 日本生理学会 |
| 日本解剖学会 | 日本蛋白質科学会 |
| 日本細胞生物学会 | 日本動物学会 |
| 日本時間生物学会 | 日本発生生物学会 |
| 日本実験動物学会 | 日本比較生理生化学会 |
| 日本植物学会 | 日本比較内分泌学会 |
| 日本植物生理学会 | 日本微生物生態学会 |
| 日本進化学会 | 日本分子生物学会 |
| 日本神経化学会 | 日本分類学会連合 |
| 日本神経科学学会 | 日本免疫学会 |
| 日本生化学会 | 日本薬理学会 |

(2013年2月現在)

の変更などにより、もっと強い意見の表出が求められるようになってきました。国内の科学・技術や学術に対して、十分な実行がなされなくなってきているのです。大学や研究所も大変、疲弊しているのが現状です。これからの大学や研究所等における「生物科学」の健全な発展のために、各学協会がもっと協力し、政府や国民、学協会等に対しても意見をきちんと出していけるようにした方が良いとの結論に至りました。

そのため、2010年にこれまで一年交代で代表が替わっていたものを選挙によって代表を選ぶことを決め、「生物科学学会連合」も新たな段階に入ってきたと言えます。2012年末に代表に私が再選されましたので、心をひきしめて、これから「生物科学学会連合」の発展につくしたいと思っています。今年からは分類学会連合も私達の学会連合に加盟することになりました。

生科連がお互いに忌憚のない意見や討議を通じて生物科学の一層の発展に寄与することを願っております。御協力と御指導をよろしくお願い申し上げます。

個体群生態学会

会長：嶋田 正和
(2013年1月1日現在)

- 1961年設立
- 会員数：360名
- 〒603-8148
- 京都市北区小山西花池町1-8 俣土倉事務所内 個体群生態学会事務局
- Tel：075-451-4844
- Fax：075-441-0436
- E-mail：bwa36248@nifty.ne.jp
- URL：http://www.population-ecology.org/

生物の個体群に関係した生態学や進化学の発展をはかるため、大会を年1回開催。日本の生態学分野の英文誌としてもっとも歴史が長く、国際的評価も高いPopulation Ecologyを年4回発行。若手研究者の顕彰などにも取り組んでいる。

日本味と匂学会

会長：宮本 武典
(2013年1月1日現在)

- 1991年設立
- 会員数：830名
- 〒112-8681
- 東京都文京区目白台2-8-1 日本女子大学理学部生体情報科学研究室
- Tel/Fax：03-5981-3668
- E-mail：jasts@fc.jwu.ac.jp
- URL：http://jasts.com

本学会は、前身である味と匂のシンポジウムが1967年に発足して以来、味と匂に関する科学の広範な研究の進展を図るため、学術大会の年1回開催、学術講演会／ワークショップの随時開催、日本味と匂学会誌の年3回刊行、メーリングリストの運用等により会員の交流を促進し、顕彰事業などを通して若手研究者の育成にも積極的に取り組んでいる。また、アジア地区連携シンポジウムを開催するなど、国際化の促進をはかっている。

日本遺伝学会



会長：速藤 隆
(2013年1月1日現在)

- 1920年設立
- 会員数：約834名 (2013年1月1日現在)
- 〒411-8540
- 静岡県三島市谷田1,111
- 国立遺伝学研究所内
- Tel/Fax：055-981-6736
- E-mail：japgenet@nig.ac.jp
- URL：http://gsj3.jp/

遺伝に関する研究を奨めその知識の普及を計ることを目的に、学術集会を年1回、談話会を各地で年6回ほど開催、学術誌Genes & Genetic Systemsを年6巻発行、さらにニュースレターのGSJコミュニケーションズの年3回発行等を行っている。また、学会賞・ベストペーパー賞を設け優れた研究業績を一般に知らせるとともに、奨励賞を設け若手研究者の助成を行っている。

日本細胞生物学会



会長：目加田英輔
(2013年1月1日現在)

- 1950年設立
- 会員数：約1,200名 (2013年1月1日現在)
- 〒602-8048
- 京都市上京区下立売通小川東入
- Tel：075-415-3661
- Fax：075-415-3662
- E-mail：jscb@nacos.com
- URL：http://www.jscb.gr.jp/

本会は細胞生物学の進歩発展を図ることを目的として、学術集会の開催、学会誌Cell Structure and Functionの刊行、会報の発行、国際細胞生物学連合やアジア太平洋細胞生物学連合の活動への協力などを行っています。細胞生物学は、電子顕微鏡技術の発展、分子イメージング技術の発達、各種生化学的技術の開発、分子生物学と細胞工学・遺伝子工学の導入によって急速に進歩し、動物・植物を問わず、細胞の生命現象の解明は急速に進み、その成果は確実に医学・農学・薬学等へ応用されてきました。今や細胞生物学は生命科学の中心であり、本会はその進歩発展、次世代の若手研究者の育成に貢献していきたいと考えています。

公益社団法人 日本植物学会



会長：福田 裕穂
(2013年1月1日現在)

- 1887年設立
- 会員数：約2,100名 (2010年6月現在)
- 〒113-0033
- 東京都文京区本郷2-27-2
- 東眞ビル2階
- Tel：03-3814-5675
- Fax：03-3814-5352
- URL：http://bsj.or.jp/index-j.php

植物学に関する研究の進展と知識の普及を図り、それによって学術全般の発展に寄与することを目的に設立された学術団体です。(1)学術集会、講演会、講習会等の開催、(2)国際学術雑誌「Journal of Plant Research」、その他出版物の発行、(3)調査及び研究、(4)学会賞を制定し、植物科学の進歩に貢献した者、もしくは将来の貢献が期待される者の表彰ならびに研究の奨励、(5)国内外の関係学術団体との連絡及び協力を行っています。

日本宇宙生物科学学会



会長：太西 武雄
(2013年1月1日現在)

- 1987年設立
- 会員数：310名 (2013年1月現在)
- 〒633-0091
- 桜井市桜井52-1
- Tel / Fax：0744-43-2927
- E-mail：jsbss_o@nike.eonet.ne.jp
- URL：http://jsbss.kenkyuukai.jp/

現代自然科学の発展は、人類の宇宙観、生命観を大きく変えつつある。また、技術の発達によって、人類の活動の場は宇宙空間へと広がっている。宇宙生物学は、かつてない状況の下で生まれた新しい科学の分野であり、多彩な領域を含んでいる。このような宇宙生物学およびそれに関連する分野の学術研究を振興し、宇宙的視野に立つ生物学を確立するため、学術集会や公開講演会を年1回開催、学術誌Journal of Biological Sciences in Spaceを年4回発行、メイリングリスト等により会員の交流を促進し、国際的な連絡もはかっている。

日本時間生物学会



理事長：近藤 孝男
(2013年1月1日現在)

- 1995年設立
- 会員数：600名
- 〒464-8601
- 愛知県名古屋市中千種区不老町
- 名古屋大学大学院 生命農学研究科
- 応用分子生命科学専攻
- バイオモデリング講座
- 動物行動統御学研究分野内
- Tel / Fax：052-789-4066
- URL：http://www.soc.nii.ac.jp/jsc/

基礎科学から応用科学に至る時間生物学の広い領域から研究者が結集している学会である。学術集会を年1回会員の持ち回りで開催するほか、機関紙「時間生物学」を年2回発行している。また、米国生物リズム研究会、欧州生物リズム学会などを統合した時間生物学会連合の幹事学会として4年に1度の時間生物学世界大会を開催、また欧州生物リズム学会やアジア睡眠学会と国際学術会議を共同開催している。

日本植物生理学会



会長：町田 泰則
(2013年1月1日現在)

- 1959年設立
- 会員数：約2,400名 (2012年12月末現在)
- 〒602-8048
- 京都市上京区下立売通小川東入
- Tel：075-415-3661
- Fax：075-415-3662
- URL：http://www.jspp.org/

植物と微生物を対象とした生化学、分子生物学、細胞生物学、遺伝学等の研究者による“植物の機能に関する科学”の総合学会として発展してきた。会員の約4分の1が外国人会員である。欧文誌Plant and Cell Physiologyを刊行し、植物科学分野の原著論文誌として、Impact Factorは日本で第1位、世界でも上位にランクされている(2011年：4.702)。植物科学の啓蒙活動にも力を入れている。

一般社団法人 日本解剖学会



理事長：高田 邦昭
(2013年1月1日現在)

- 1887年設立
- 会員数：2,457名 (2013年1月1日現在)
- 〒170-0003
- 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル
- 一般財団法人 口腔保健協会内
- Tel：03-3947-8891
- Fax：03-3947-8341
- E-mail：gakai24@kokuhoken.or.jp
- URL：http://www.anatomy.or.jp/

第118回総会・全国集会は2013年3月28-30日、竹内義喜会頭の下、サンポートホール高松・かがわ国際会議場で開催する。学会誌は、Anatomical Science Internationalと解剖学雑誌をそれぞれ年4回発行。その他に、支部学術集会の開催、学術会議関連シンポジウムへの参画、学会抄録データベースの構築・解剖学用語の検討・解剖組織技術士の認定など。また、2013年1月4日に社団法人から一般社団法人へ移行した。

公益社団法人 日本実験動物学会



会長：八神 健一
(2013年1月1日現在)

- 1951年設立
- 会員数：1,196名 (2013年1月1日現在)
- 〒113-0033
- 東京都文京区本郷5-29-12
- 赤門口イoyalハイツ1103
- Tel：03-3814-8276
- Fax：03-3814-3990
- E-mail：JDK06323@nifty.ne.jp
- URL：http://www.jalas.jp/index.html

実験動物はライフサイエンス研究や医薬品開発等の分野で多用され、動物実験はそれらの研究開発に不可欠な手段として広範な分野で実施されています。日本実験動物学会は、マウスから霊長類まで多様な実験動物に関する基礎及び応用研究、動物実験に関する技術開発等に携わる研究者、技術者を主な会員とし、年1回の定期学術集会、学術シンポジウムや動物実験の適正化に関するセミナー等の開催、学会誌Experimental Animalsの刊行を行っています。

日本進化学会



会長：倉谷 滋
(2013年1月1日現在)

- 1999年設立
- 会員数：1,215名 (2013年1月1日現在)
- 〒102-0072
- 東京都千代田区飯田橋3-11-15
- UEDAビル6階 株式会社クパプロ内
- Tel：03-3238-1689
- Fax：03-3238-1837
- E-mail：shinka@kuba.jp
- URL：http://sesj.kenkyuukai.jp

日本進化学会は、生命現象の中心が進化であるという認識のもとに、生物進化に興味を持つ研究者が中心となって1999年に設立された、若い学会です。年次大会では大学院生などの若手研究者を中心に活発な議論がされていますが、学会機関誌は持っていません。これにより年会費を安く設定し、既存の学会に属する方にも気軽に入会していただけるようになっています。

日本神経化学学会



理事長：井上 和秀
(2013年1月1日現在)

- 1958年設立
- 会員数：1,400名 (2013年1月1日現在)
- 〒160-0016
- 新宿区信濃町35信濃町煉瓦館
- (財) 国際医学情報センター内
- Tel：03-5361-7107
- Fax：03-5361-7091
- E-mail：jsn@imic.or.jp
- URL：http://www.neurochemistry.jp/

日本神経化学会は、「神経化学」を標榜する世界で最も長い歴史と最大級の会員数を有する学会であり、1958年に神経生理学、神経薬理学、神経生化学、精神医学、神経内科学を中心とした基礎研究者と臨床医学者が集い結成された。脳と神経の病気の原因や発症の仕組みについて分子実体を基盤として明らかにしていくこと、そしてそこからサイエンスの新しい地平線を切り開くことが本学会の主たる使命である。そのために、口演発表と討論の充実による若手会員の育成、基礎と臨床の連携強化、脳・神経・グリア研究の推進などを実践している。

日本生態学会



会長：松田 裕之
(2013年1月1日現在)

- 1953年設立
- 会員数：約4,300名
- 〒603-8148
- 京都市北区小山西花池町1-8
- Tel/Fax：075-384-0250
- URL：http://www.esj.ne.jp/esj/

生態学の進歩と普及を図ることを目的として、日本生態学会は、生態学およびその関連分野に関わる研究を推進するため、研究者を始め関連する職業や学生の方々を会員として、1953年に設立されました。これまで自然保護委員会を中心として数々の自然保護に関わる提言や要望書を提出してきましたし、生態系管理委員会でも自然再生に対する提言を行ってきました。最近の生物多様性や気候変動などの問題を通じて、当会と社会への関わりをこれまで以上に広げています。

一般社団法人 日本生理学会



会長：栗原 敏
(2013年1月1日現在)

- 1922年設立
- 会員数：2,750名
- 〒160-0016
- 東京都新宿区信濃町 煉瓦館5階
- (財) 国際医学情報センター内
- Tel：03-5361-7277
- Fax：03-5361-7091
- E-mail：psj@imic.or.jp
- URL：http://physiology.jp/ (日本語版)
- http://int.physiology.jp/ (英語版)

年一度の学術大会(通常3月または4月)を開催する他、7つのブロックで地方会を開催している。学会誌として、英文誌(Journal of Physiological Sciences)および和文誌(日本生理学雑誌)を刊行している。2006年8月に有限責任中間法人日本生理学会となり、2009年3月以降は一般社団法人日本生理学会となった。

日本神経科学学会



会長：宮下 保司
(2013年1月1日現在)

- 1974年設立
- 会員数：5,476名 (2013年1月1日現在)
- 〒113-0033
- 東京都文京区本郷7丁目2-2
- 本郷ビル9F
- Tel：03-3813-0272
- Fax：03-3813-0296
- URL：http://www.jnss.org/

脳・神経系に関する基礎、臨床及び応用研究を推進し、その成果を社会に還元、ひいては人類の福祉や文化の向上に貢献すべく、神経科学研究者が結集した学術団体です。本学会は会員の成果発表、情報交換及び連絡連携の場として学術集会を開催するとともに、英文学術誌Neuroscience Researchを発行して研究成果を世界に向けて発信しています。また、学術集会と連動して市民公開講座を開催し、社会に貢献する活動にも取り組んでいます。

日本生物教育学会



会長：米澤 義彦
(2013年1月1日現在)

- 1955年設立
- 会員数：約800名
- 〒772-8502
- 徳島県鳴門市鳴門町高島字中島748
- 鳴門教育大学自然・生活系教育部内
- Tel：088-687-6413
- Fax：088-687-6447
- URL：http://homepage2.nifty.com/bioLed/

日本生物教育学会は、生物教育に関わる学術的及び実践的研究の振興を目的として活動しています。会員の研究活動の交流の場として、会誌「生物教育」を発行するとともに年2回の全国大会を開催しています。その他、生物教育サポート委員会による生物教育へのサポート事業、大学入試センター試験の問題検討、日本生物学オリンピックへの協力などの活動を行っています。

日本蛋白質科学会



会長：中村 春木
(2013年1月1日現在)

- 2001年設立
- 会員数：1,437名 (2012年1月1日現在)
- 〒562-8686
- 大阪府箕面市堀4-1-2
- Tel：072-729-4125
- Fax：072-729-4165
- E-mail：pssj@senri-inter.jp
- URL：http://www.pssj.jp/

本学会は、広く蛋白質に関する科学の研究を推進し、わが国における学術の発展に寄与することを目的として、2001年4月1日に、日本蛋白工学会、蛋白質構造討論会、蛋白質立体構造構築原理研究会が母体となって発足した。年に1回の日本蛋白質科学会年会の開催、学術集会・学術講演会の開催、電子メールを利用したニュースレターなどの発行、インターネット上での蛋白質科学会アーカイブの刊行、アジア環太平洋地域における蛋白質科学の国際連携などの活動を行っている。

公益社団法人 日本生化学会



会長：石川 冬木
(2013年1月1日現在)

- 1925年設立
- 会員数：8,997名 (2012年7月31日現在)
- 〒113-0033
- 東京都文京区本郷5-25-16
- 石川ビル3階
- Tel：03-3815-1913
- Fax：03-3815-1934
- URL：http://www.jbsoc.or.jp/

生化学会は、生命現象を分子・遺伝子・細胞・組織や個体レベルで解明することをめざし、基礎・応用研究、教育、行政などに取り組む教育・研究者の交流の場です。分子と分子の相互作用(生化学)をキーワードにしながら、画像解析、情報科学、分子構造解析など最先端の技術を積極的に取り入れる「若さ」を誇る「歴史」ある学会です。高校生などの「理科離れ」、若い研究者のキャリアパス支援にも積極的に対応します。

日本生物物理学会



会長：難波 啓一
(2013年1月1日現在)

- 1960年設立
- 会員数：約3,400名
- 〒565-0871
- 大阪府吹田市山田丘1-3
- 大阪大学大学院 生命機能研究科内
- Tel：06-6879-4625
- Fax：06-6879-4652
- URL：http://www.biophys.jp/

本学会は、“物理的科学の方法一般と生物的科学との融合による生命現象の基本的理解”を目的として設立された。この目的を達成するために、学術集会(年会)を年1回開催するとともに、学会誌「生物物理」およびOn-line journal “BIOPHYSICS”を発行している。若手研究者の育成のため、若手奨励賞による顕彰、海外派遣の支援等を行っている。また、アジア生物物理学連合に協力し、アジアの生物物理振興にも貢献している。

公益社団法人 日本動物学会



会長：阿形 清和
(2013年1月1日現在)

- 1878年設立
- 会員数：2,365名
- 〒113-0033
- 東京都文京区本郷7-2-2
- 本郷MTビル4階
- Tel：03-3814-5461
- Fax：03-3814-6216
- E-mail：zsj-society@zoology.or.jp
- URL：http://www.zoology.or.jp/

動物科学研究の発展と普及を目的とし、学術集会を年1回開催、本部企画シンポジウムおよび会員企画シンポジウム/講演会の開催、学術誌Zoological Scienceを年12回刊行、さらにメールマガジンの年12回発行等により会員の交流を促進し、若手の海外派遣助成や女性研究者奨励OM賞による研究者育成にも取り組んでいる。7つの支部において支部大会と例会会を開催、公開講演会や高校生ボスター賞、学生発表表彰制度などの取り組みを行っている。